

九州大学で発見された木村清朗氏による室見川魚類目録 ならびに博多湾流入河川の淡水魚類標本

日比野 友亮

北九州市立自然史・歴史博物館：〒805-0071 福岡県北九州市八幡東区東田2-4-1
yusukeelology@gmail.com

要旨：九州大学の箱崎キャンパス水産標本室から木村清朗氏によって書かれたフィールドノート『室見川魚類目録』と福岡市ならびにその周辺（博多湾流入河川）で同時代に採集された淡水魚類標本が発見された。『室見川魚類目録』は1957年に行われた那珂川、御笠川、室見川およびそれらへの流入河川や水路での採集記録で、室見川でのアリアケギバチ、御笠川でのヒナモロコやカワバタモロコといった重要種が含まれていた。現存する魚類標本（1957-1961年）には11科34種が含まれ、この中にはすでに博多湾流入河川では絶滅状態にあるウグイやカジカ中卵型が含まれていた。

キーワード：博物標本，都市化，絶滅種，福岡県

はじめに

九州大学農学部水産学第二講座（現大学院農学研究院水産増殖学研究室）では初代教官内田恵太郎以来の国内外の多数の魚類標本が収集、保管されてきた（九州大学総合研究資料館設置準備委員会，1985；望岡，2011）。なかでも戦前から戦後にかけて内田が朝鮮半島，中国，そして九州を中心とする日本各地から収集した魚類生活史研究の標本，いわゆる内田コレクションは歴史的価値が高いことはもちろん，その多くが実際の研究に用いられており（内田ほか，1958など），我が国における魚類生活史研究の黎明期の熱意を垣間見ることのできる学術的価値の高い標本群である。ただし，内田以外が収集した標本も含めれば実際に整理，登録が行われたものはごく一部に過ぎず，その大半が未整理のまま保管されているのが現状である。

我が国では明治維新後の近代化とともに魚類標本の蓄積が東京から始まった。ただし，標本の収集数が劇的に増加するのは田中茂穂が東京帝国大学に任用されて以降であり，日本各地での標本の収集体制が整うのは第二次世界大戦終結後になってからであった。福岡県産の初期

の淡水魚類標本としては戦前の柳川市で木下盛枝〔柳河高等女学校（現伝習館高等学校）〕や富山一郎（東京大学）によって採集されたものが東京大学や京都大学に少数残されており（日比野，未発表データ；Hibino et al., 2022；小枝ほか，2022），戦後すぐのものは資源科学研究所から国立科学博物館へと移管された標本群の中にもみられる。ただし，福岡県産の淡水魚類標本としてまとまったものは塚原博（九州大学）や木下による柳河産標本（日比野，未発表データ）を除いてほとんどなく，かつて，特に高度経済成長期以前の福岡県での淡水魚類の分布状況を知ることは難しい。現状では，いくつかの分類群の生活史研究についての論文中の記述や図からその豊かな環境の断片を伺い知ることができる程度である（例えば塚原，1954；道津，1957など）。福岡市域については，1992年度から市内の主要6河川水系（西から順に瑞梅寺川，室見川，樋井川，那珂川，御笠川，多々良川水系）について5年ごとに自然環境調査調査が実施され（福岡市，2023），その魚類相に基づく群集解析も行われている（土田ほか，2018など）。しかし，急速に都市開発が進められた福岡市の，それ以前の水環境を伺い知るとはきわめて難しく，一部の聞き書き資料や郷土史資料

にその痕跡を見ることができるに過ぎない（たとえば藤村, 1982; 福岡市博物館, 2023）。

木村清朗（1932-2009）は元九州大学農学部の教員で、主としてサケ・マス類を中心とした生活史に関する研究を行った。九州大学農学部箱崎キャンパスにあった水産標本室（通称貝塚標本室）には多数の魚類標本が残されており、この中には木村らによって採集された淡水魚類も含まれている。木村の標本はほとんどがサケ・マス類だが、この中に1957年から1961年にかけて博多湾流入河川で採集された淡水魚が見出され（ただし後述するように多部田修らも採集に加わっていたと思われる）、さらに『室見川魚類目録』とペン書きされた野帳が発見された。博多湾流入河川の1950-1960年代に関する魚類の生息状況の分かる資料はほとんどなく、また木村による採集記録の多くが詳細な場所を特定できるものであったことから、合わせて発見された博多湾流入河川産の標本とともに本地域における魚類記録の一端として報告する。

調査の方法

本研究では『室見川魚類目録』（以下、目録）に記された採集記録と、九州大学に保管されていた標本について、採集場所の特定作業を行った。特定にあたっては今昔マップ（<https://ktgis.net/kjmapw/>）をもとに、木村の採集時期に近い1948-1956年と、1967-1972年の地図と現在の地図を比較し、道路や橋脚といった構造物の位置を推定した。さらに後述する立原一憲氏の私信や、目録中にある採集地の図、九州大学に保管されていた木村が撮影したネガフィルムを参照したうえで、現地踏査も行い目録と標本瓶中のラベルに記載されていた採集場所の絞り込みを行った。さらに、後述の木村による採集日時番号をもとに、現存標本との照合作業を行った。

現存標本についてはNakajima（2012）と中坊（2013）による種同定を行った。学名については中坊（2013）を基本として、カワムツとオイカワの学名についてはIto et al.（2017）の、タカハヤの学名についてはSakai et al.（2006）の、ウグイについてはSakai et al.（2020）の、ゴクラクハゼの学名についてはSuzuki et al.（2015）の見解にしたがった。検討された魚類標本はすべて九州大学伊都キャンパスに保存されている。

結果と考察

室見川魚類目録について

木村清朗氏は1932年生まれで、鹿児島大学を卒業後、1957年に九州大学大学院農学研究科水産学専攻に進学している。同氏は1962年に博士課程を単位取得退学すると同時に九州大学の助手として採用され、その後1995年に定年に至るまで九州大学で淡水魚類の生活史に関する研究を行った。九州大学には1957年から1961年にかけて木村によって採集された標本が現存するが、目録には1957年の採集記録がまとめられている。

目録（Fig. 1）は表紙を除く全29ページから構成されている。標題には「室見川」とあるものの、実際には那珂川や御笠川での採集記録も含んでおり、1ページ目は那珂川での採集記録から始まっている。同帳内の採集記録は時系列に沿ったものではなく、むしろ河川ごとにまとめられている。このことから、同帳は元々存在した野帳を河川ごとに整理したうえで清書されたものであると考えられる。記載は原則としてページの表面のみに書かれており、裏面は白紙である。

目録中の採集記録は原則として日付、場所、採集方法、種名と個体数、長さ（全長と考えられる）がまとめられ、種名はすべて和名と学名が併記されている（図1b,c; 附録）。さらに、カラーペンで通し番号（例：N-2）が書かれており、これは河川ごと、採集日ごとに区分されているもので、例示であれば那珂川の2番目の採集記録を指す。御笠川と室見川はイニシャルが同じMであるため、前者にはMi、後者にはMuが与えられている。記載の順は那珂川、御笠川、室見川の順になっている。このうち室見川での採集記録については、魚種ごとに初出時に算用数字の番号が追記されていた（図1c）。何らかの理由で室見川産の魚種数を計数する必要があったと考えられる。室見川の採集記録の末尾には、6種の魚類〔ドジョウ、コイ、オヤニラミ、スナヤツメ、マウナギ（＝ニホンウナギ）、ギバチ（＝アリアケギバチ）〕が採集記録を伴わずに列記されている。これら6種についても算用数字の番号が追記されていることから、1957年の既出の採集記録中にはないが、当時の室見川で出現する魚類として追記したものとみて問題ないであろう。Mizoiri et al.（1997）は九州におけるアリアケギバチとギギの地理的分布をまとめ、前者については博多湾流入河川では那珂

川のみ分布を認めている。しかしながら、実際には藤村(1982)は樋井川において「体に黄白色の斑紋のある鯰の子によく似た体長十糎か十二・三糎位のギギユウという魚もいた」と懐述しており(簡素な図もある)、これは明らかにアリアケギバチを指している。木村による目録中での記述も踏まえると、かつては那珂川以外にも複数の博多湾流入河川にアリアケギバチが分布していたと推測される。アリアケギバチの他にも、カワバタモロコやヒナモロコ(御笠川水系)、ヤリタナゴ(室見川水系)のように、現在では見られなくなった種の記載が含まれる。

福岡市域(博多湾流入河川)の魚類標本の現存状況

前述のとおり、九州大学農学部貝塚標本室に旧蔵されていた魚類標本を探索したところ、1957年から1961年にかけて、福岡市域(博多湾流入河川と水路)で採集された魚類標本の残存が確認された。標本の多くは貝塚標本室右奥の木棚にまとまって保管されており、一部はその近辺に散在していた。標本点数(瓶数)は52ロット782個体(ただし一部の仔稚魚については計数していない)で、その大半は小瓶であり、1958年から1959年にかけて室見川水系の上流(八丁川:ただしラベル上では「曲淵」、もしくは調査地の地点番号で記入)で採集された標本であった。これらの標本は多部田・塚原(1964a)でタカハヤの生活史研究に使用されたものである。標本ラベルは当時九州大学の学生であった多部田修によって書かれたものであるが、木村もたびたび採集に同行していた(望岡,私信;日比野,未発表データ)。標本の同定を試みた結果、11科34種が確認された(表3)。この中には、すでに福岡県では絶滅したカジカ中卵型や、博多湾では標本に基づく記録のないウグイが含まれていた。なお多部田・塚原(1964b)で博多湾にも海産ウグイが分布することが言及されている。

標本瓶の一部には外側にペン書きで通し番号が書かれていた(図2)。この番号を目録と照合した結果、一部の標本が残存していることが確認された(附録)。

採集場所について

『室見川魚類目録』と九州大学に保管されている標本を検討した結果、博多湾流入河川の5水系で採集が行われていた(表1,2;附録)。木村は学生時代、電車もしくは

はバスで採集に出掛けており、採集地は九州大学の近傍を除けばその交通便によって大きく制限されていた(立原,私信)。実際の採集地点も明らかにその傾向がみられ、西鉄大牟田線や筑肥線(当時)、西鉄バスのルート付近に採集地がある。このほか、室見川上流域にも採集地が点在するが、立原の私信に基づいて考えれば、その採集地点はやはり西鉄バスの停車場付近であったと推測できる。目録中では一部の採集地について採集場所の状況が図示されており、詳細な採集地点が分かるように工夫されていた(図1d)。

おわりに

本稿では九州大学農学部の魚類標本整理の過程で確認された博多湾流入河川の魚類標本ならびに採集記録について報告した。九州大学にはこの他にも多数の魚類標本が未整理のまま保管されており、全容把握のための整理が急務である。木村による野帳は現状では『室見川魚類目録』を除いて発見されておらず、その他の野帳についても発見が望まれる。

謝辞

九州大学総合研究博物館の丸山宗利氏には九州大学箱崎サテライト(旧箱崎キャンパス)での標本調査に、九州大学農学研究院の望岡典隆氏、松重一輝氏、附属水産実験所の小山彰彦氏には伊都キャンパスでの標本調査にご協力いただいた。元琉球大学の立原一憲氏には木村清朗氏に関する重要な情報をご教示いただいた。この場を借りて御礼申し上げる。

参考文献

- 道津喜衛, 1957. チクゼンハゼの生態・生活史. 魚類学雑誌, 6: 97-104.
- 藤村勝丸, 1982. 別府の歴史見聞録——村のおまつりと子どもの遊び——. 自費出版.
- 福岡市, 2023. 自然環境データ. https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-chosei/hp/sizenkankyou/sizen_data.html (2023年12月27日参照)
- 福岡市博物館, 2023. ふくおか民俗カタログ3川と池の漁撈. <https://museum.city.fukuoka.jp/archives/leaflet/330/index.html> (2023年12月5日参照)

- 服部英雄, 2006. 博多の海の暗黙知・唐房の消長と在日宋人のアイデンティティ. Pp. 171-197. 森川哲雄・佐伯弘次 (編) 内陸圏・海域圏交流ネットワークとイスラム:九州大学21世紀COEプログラム(人文科学)「東アジアと日本:交流と変容」. 権歌書房, 福岡.
- Hibino, Y., Koeda, K., Aizawa, M., Sakamoto, K. and Ueshima, R., 2022. List of the specimens of the family Anguillidae (Actinopterygii: Anguilliformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, 129: 137-148.
- Ito, T., Fukuda, T., Morimune, T. and Hosoya, K., 2017. Evolution of the connection patterns of the cephalic lateral line canal system and its use to diagnose opsariichthyin cyprinid fishes (Teleostei, Cyprinidae). *ZooKeys*, 718: 115-131.
- 小枝圭太・畑晴陵・藍澤正宏・坂本一男・上島励, 2022. 東京大学総合研究博物館動物部門の魚類コレクションの歴史. 東京大学総合研究博物館標本資料報告, 129: 1-24.
- 九州大学総合研究資料館設置準備委員会(編), 1985. 九州大学所蔵標本・資料. 九州大学, 福岡. 26 pp.
- Mizoiri, S., Takeshita, N., Kimura, S. and Tabeta, O., 1997. Geographical distribution of two bagrid catfishes in Kyushu, Japan. *Suisanzoshoku*, 45: 497-503.
- 望岡典隆, 2011. 魚類生活史標本——内田コレクション——. pp. 34-35. 九州大学百年の宝物刊行委員会(編)九州大学百年の宝物. 丸善プラネット, 東京.
- 中坊徹次(編), 2013. 日本産魚類検索全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野. 2530 pp.
- Nakajima, J., 2012. Taxonomic study of the *Cobitis striata* complex (Cypriniformes, Cobitidae) in Japan. *Zootaxa*, 3586: 103-130.
- Sakai, H., Ito, Y., Shedko, S. V., Safronov, S. N., Frolov, S. V., Cheresnev, I. A., Jeon, S. R. and Goto, A., 2006. Phylogenetic and taxonomic relationships of northern Far Eastern phoxinin minnows, *Phoxinus* and *Rhynchocypris* (Pisces, Cyprinidae), as inferred from allozyme and mitochondrial 16S rRNA sequence analyses. *Zoological Science*, 23: 323-331.
- Sakai, H., Watanabe, K. and Goto, A., 2020. A revised generic taxonomy for Far East Asian minnow *Rhynchocypris* and dace *Pseudaspius*. *Ichthyological Research*, 67: 330-334.
- 佐藤垢石・鈴木晃, 1942. 鮎釣. 鶴書房, 東京. 292 pp.
- Suzuki, T., Shibukawa, K., Senou, H. and Chen, I.-S., 2015. Redescription of *Rhinogobius similis* Gill 1859 (Gobiidae: Gobionellinae), the type species of the genus *Rhinogobius* Gill 1859, with designation of the neotype. *Ichthyological Research*, 63: 227-238.
- 多部田修・塚原博, 1964a. 北九州におけるアブラハヤの生活史 - I. 九州大学農学部学藝雑誌, 21: 123-130.
- 多部田修・塚原博, 1964b. 北九州における海産ウグイの産卵習性とその漁法. 九州大学農学部学藝雑誌, 21: 215-225.
- 土田大輔・中島淳・熊谷博史・古閑豊和・松本源生・石橋融子, 2018. 博多湾流入河川における淡水魚類の群集解析に基づいた地域特性の把握手法. 土木学会論文集 G (環境), 74: 48-58.
- 塚原博, 1954. ツチフキの産卵習性. 魚類学雑誌, 3: 139-143.
- 内田恵太郎・今井貞彦・水戸敏・藤田矢郎・上野雅正・庄島洋一・千田哲資・田福正治・道津喜衛, 1958. 日本産魚類の稚魚期の研究. 第1集. 九州大学農学部水産学第二教室, 福岡. 89 pp., 86 pls.

Received Dec. 16, 2023; accepted Jan. 13, 2024

表1 九州大学に所蔵されている博多湾流入河川産魚類標本（1957-1961）の水系毎の採集情報

ラベル中の採集地情報	推定採集位置	日付
御笠川水系		
下大利	33. 5241, 130. 4926	1957/8/14
下大利 ホソ	不明	1957/8/16
室見川水系		
筑肥線鉄橋附近	33. 5797, 130. 3355	1957/4/15
小田部浄水池前	33. 5759, 130. 3283	1957/7/30
室見川松風橋下	33. 5292, 130. 3225	1957/8/1
野河内	不明	1957/8/25
鉄橋上	33. 5794, 130. 3347	1958/4/10
曲淵②区 (No. 1の下)	33. 4971, 130. 2970	1958/5/9
曲淵水源池	33. 5008, 130. 3031	1958/5/10
曲淵 学校ウラ	33. 4977, 130. 2983	1958/5/10
曲淵 ②区	33. 4971, 130. 2970	1958/5/10
椎原	不明	1958/5/17
椎原川下	不明	1958/5/19
椎原川	不明	1958/5/19
椎原	33. 4693, 130. 3540	1958/5/31
曲淵学校ウラ (定点)	33. 4977, 130. 2983	1958/6/1
曲淵 定 (混)	不明	1958/7/1
曲淵②山小屋下の滞	33. 4971, 130. 2970	1958/9/5
曲③学校ウラ	33. 4977, 130. 2983	1958/9/17
曲淵 小学校裏混雑域	33. 4977, 130. 2983	1958/10/10
曲淵 小学校ウラ 第一堰下	33. 4977, 130. 2983	1958/10/14
曲淵 小学校ウラ	33. 4977, 130. 2983	1958/10/14
上流椎原	不明	1958/10/20
曲淵③	33. 4977, 130. 2983	1958/12/1
曲淵 定 (混)	不明	1958/12/1
曲淵 定 (混)	不明	1958/12/1
③ダム上左	33. 4976, 130. 2994	1959/2/11
③上限	33. 4977, 130. 2983	1959/2/11
③カワムツ	33. 4977, 130. 2983	1959/2/11
曲淵②③	33. 4977, 130. 2975	1959/4/29
曲淵②③	33. 4977, 130. 2975	1959/4/29
曲淵②	33. 4971, 130. 2970	1959/6/1
曲淵③	33. 4977, 130. 2983	1959/6/1
曲淵	不明	1959/6/1
筑肥線鉄橋下附近	33. 5800, 130. 3362	1960/3/17
鉄橋附近	33. 5797, 130. 3355	1960/3/17
室見鉄橋からその上流 500m	33. 5777, 130. 3302	1960/3/17
下流部鉄橋附近第一堰	33. 5758, 130. 3279	1960/9/29
下流部及第一堰上	33. 5753, 130. 3277	1960/9/29
下流第一堰まで	不明	1960/9/29
下流	不明	1960/9/29
下流部 (第一堰)	33. 5758, 130. 3279	1960/9/29
下流部 (第一堰の上)		1960/9/29
下流部鉄橋の少し上流	33. 5794, 130. 3347	1960/9/29
下流部 (鉄橋-第一堰中間より上流)	33. 5777, 130. 3304	1960/9/29
名柄川水系		
姪浜川口より 2km 都町トーボウ川*	33. 5820, 130. 3195	1960/9/6
トーボウ川第一堰より上流*	33. 5786, 130. 3188	1960/9/27
トーボウ川下流部鉄橋附近*	33. 5840, 130. 3197	1960/9/29
那珂川水系		
平尾橋附近	33. 5737, 130. 4046	1957/4/9
那珂川上流	不明	1959/4/10
那珂川上流	不明	1959/4/10
十郎川水系		
姪の浜 十郎川河口	33. 5874, 130. 3115	1961/5 (日不明)

*名柄川は河口の姪浜にチャイナタウンを意味するトウボウ (唐房, 転じて当方) 地区があり, かつて当方川と呼ばれていた (服部, 2006). 現在この地名はないが, 姪浜当方公園など一部の名称に名残がみられる.

表2 室見川魚類目録における採集情報

通し番号	推定採集地	採集日時
N-1	33. 5610, 130. 4290	1957/8/28
N-2	33. 5549, 130. 4346	1957/8/28
N-3	なし	1957/9/3
Mi-1	33. 5331, 130. 4871	1957/8/9
Mi-2	33. 5241, 130. 4926	1957/8/14
Mi-3	33. 5332, 130. 4877	1957/8/14
Mi-4	33. 5332, 130. 4877	1957/8/14
Mi-5	33. 53355, 130. 48629	1957/8/16
Mi-6	33. 5332, 130. 4877	1957/8/14
Mu-1	33. 58561, 130. 34174	1957/8/7
Mu-2	33. 58561, 130. 34174	1957/8/7
Mu-3	なし	1957/9/8
Mu-4	33. 4699, 130. 3506	1957/8/6
Mu-5	33. 5683, 130. 3267/33. 5759, 130. 3283	1957/7/30
Mu-6	33. 5760, 130. 3282/33. 5683, 130. 3267	1957/4/24
Mu-7	不明	1957/8/1
Mu-8	33. 5801, 130. 3377	1957/7/31
Mu-9	33. 5797, 130. 3355-33. 5758, 130. 3279	1957/8/3
Mu-10	33. 5683, 130. 3270	1957/8/2
Mu-11	33. 5292, 130. 3225	1957/8/1
Mu-12	33. 5292, 130. 3225	1957/8/1
Mu-13	33. 4693, 130. 3540/33. 4814, 130. 3463	1957/4/26

表3 九州大学に所蔵されている博多湾流入河川産魚類標本 (1957-1961)

標準和名	学名	御笠川	室見川	名柄川	那珂川	十郎川
ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>		○			
フナ属の1種	<i>Carassius</i> sp.	○	○			
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	○				
カワムツ	<i>Nipponocypris temminckii</i>		○		○	
ウグイ	<i>Pseudaspius hakonensis</i>		○	○		○
カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus</i>		○			
ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>		○			
バラタナゴ (亜種不明)	<i>Rhodeus ocellatus</i> subsp.	○				
タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephala</i> <i>jouyi</i>		○		○	
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>		○			
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>		○	○		
オイカワ	<i>Zacco platypus</i>		○	○		
ハカタスジシマドジョウ	<i>Cobitis striata hakataensis</i>		○			
ヤマトシマドジョウ	<i>Cobitis matsubarae</i>		○		○	
ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	○				
ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	○	○			
ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>		○			
アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>		○			
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	○	○	○		
シマイサキ	<i>Rhynchopelates oxyrhynchus</i>			○		
カジカ	<i>Cottus pollux</i>		○			
カジカ中卵型	<i>Cottus</i> sp.		○			
ドンコ	<i>Odontobutis obscurus</i>		○			
マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>		○	○		
ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>		○			
ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>		○	○		
ビリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>		○	○		
ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>		○			
シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>		○			
ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>		○			
アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>		○			
オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>		○		○	
ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius similis</i>		○			
ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		○			



図1 室見川魚類目録. a, 表紙; b, 2ページ; c, 14ページ; d, 27ページ



図2 箱崎サテライトで発見された標本瓶（現在は伊都キャンパスに移動）。a, ガラス瓶側面に「Mi-6」のペン書きがみられる；b, ガラス瓶側面の反対側には採集日と河川名がみられる；c, d, e, f, g, ガラス瓶内に含まれていた標本 [順にカワバタモロコ, パラタナゴ（亜種不明）, ドジョウ, ナマズ, ミナミメダカ]

附録

室見川魚類目録

魚類目録の記述は誤字と考えられるものも含め原文どおりとした。／は改行を意味するもので、原文には存在しない。必要に応じて一部には備考を付けた。

N-1

'57 VIII-28／那珂川 タモ／福岡学芸大前 ホソ

1. *Acheilognathus lanceolata* ヤリタナゴ／31mm～15 35尾／2. *Rhodeus ocellatus* バラタナゴ／21mm～11 8尾／3. *Zacco platypus* オイカワ／26mm～18mm 4尾／4.

Pseudogobio esosinus カマツカ／5. *Zacco platypus*?／11～9 mm 19尾

備考：福岡学芸大学は1951年に福岡市中央区荒戸から福岡市南区塩原に移転した（現在は九州大学大橋キャンパス）。現在の九州大学大橋キャンパス付近に「ホソ」（小川のことを指す）はないが、西側に石垣が残されており、木村の指す「ホソ」はここにあったと推測される。バラタナゴが指す種はニッポンバラタナゴであった可能性が高い。他の記録についても同様。

N-2

'57 VIII-28／那珂川 大橋鉄橋上 地曳網

Zacco platypus オイカワ／38mm～19mm 8尾?／*Zacco temminkii* カワムツ／38mm～16mm 7尾／*Acheilognathus lanceolata* ヤリタナゴ／81mm～18mm 9尾／*Pseudorasbora parva* モツゴ／68mm～47／*Pseudogobio esocinus* カマツカ／43mm～26 4尾／

Gnathopogon sp.?／26mm 2尾／*Oryzias latipes* メダカ／20～16mm 4尾／*Mogurunda obscura* ドンコ／28mm 1／*Pungtungia herzi* ムギツク／48mm 1尾／*Zacco* spp. オイカワ属 6／種名不称／*Misgurnus anguillicaudatus* ドジョウ／62～39mm 2／*Cobitis biwae* シマドジョウ／44～31mm 6／*Carassius auratus* フナ／57～50mm 2尾

備考：木村の指す「鉄橋（鉄橋）」は鉄道橋梁を意味する。「シマドジョウ」として記録された種はその後の分類学的研究に基づけばハカタスジシマドジョウか、ヤマトシマドジョウ、もしくは両種が混在した可能性がある。他の記録についても同様。

N-3

'57 IX-3

Coreoperca kawamebari／オヤニラミ／88～79mm 2 (3)／他に飼育中の同程度の大きさ／のもの一尾あり（1X-10 固定 TL 77mm）／漁法は刺網／*Rhinogobius similalis* ヨシノボリ／32mm 1／*Cobitis biwae* シマドジョウ／32mm 1／*Zacco* sp. オイカワ属／種名不名 5／22mm～14mm タモ

備考：直前のN-2と同一地点での採集記録と考えられるが、确实性に乏しい。通し番号から少なくとも那珂川水系であると判断される。ヨシノボリとされるものが指す種は不明

で、他の記録についても同様。室見川産の現存標本はオオヨシノボリであったが、土田ほか（2018）は那珂川水系からトウヨシノボリのみを確認しており、福岡市による自然環境調査ではこの他シマヨシノボリも得られている（福岡市，2023）。

Mi-1

'57 VIII-9 御笠川 白木原 橋ノ上／産卵場の附近 タモ網

Zacco platypus オイカワ／98, 94, 98, 91, 89mm ♂ 5尾／76, 75mm ♀ 2尾／以上の材料より人工授精をした。／*Parasilurus asotus* ナマズ 未成魚／80mm 1尾／*Olizias latipes* メダカ／36～24 14尾／*Aphyocypris chinensis* ヒナモロコ／34～27mm 5尾／*Cobitis biwae* シマドジョウ／36～31mm 2尾／*Mogurunda obscura*／36～18mm 2尾／*Rhinogobius similis* ヨシノボリ／46mm 1尾／*Rhodeus ocellatus* バラタナゴ／26mm 1尾／②*Zacco platypus* 稚魚／29mm 1尾

備考：当時は現在の県道 580 号那珂川大野城線の橋（白鳥橋）よりも 120 m ほど下流側に橋梁があり、この上流側にあたる流れ込み付近（現在の大野城総合公園付近にあったため池群を水源とする）で採集が行われた。

Mi-2

'57 VIII-14／御笠川 下大利

Carassius auratus フナ／*Acheilognathus* sp. 多分アブラボテ／*Zacco platypus* オイカワ？／20mm～17mm 4尾／*Misgurnus anguillicaudatus* ドジョウ／*Mogurunda obscura* ドンコ／*Orizias latipes* メダカ／ザリガニ 1尾

備考：現在の大野城市下大利は御笠川にほとんど接していないが、当時は現在の下大利、下大利団地、および東大利にあたる行政区域がすべて下大利に属していた。

Mi-3

'57 VIII-14／御笠川 下大利 ホソ タモ

Rhodeus ocellatus バラタナゴ 稚魚／成魚／*Hemigrammococypris rasborella*／カワバタモロコ 稚魚／*Aphyocypris chinensis* ヒナモロコ／成魚と未成魚／*Cobitis biwae* シマドジョウ／未成魚

備考：木村はいわゆる水路については「溝」と記載しており（例えば Mu-7）、ホソはもっぱら小川を指していたと推測される。下大利において御笠川に流入していたホソは少なくとも 2 本存在するが、九州大学には当時木村が撮影したネガが残されており、このネガに写るホソの川幅から Mi-1 の流れ込みであると結論した。Mi-4, Mi-6 についても同様としたが、それぞれ別のホソを指していた可能性もある。

Mi-4

'57 VIII-14／御笠川 下大利 ホソ タモ

Hemigrammocypripis rasborella / カワバタモロコ / 稚魚 / *Rhodeus ocellatus* / バラタナゴ / 稚魚 成魚 / *Aphyocypris chinensis* ヒナモロコ / 成魚 / 43~19mm 6尾 / *Zacco platypus* オイカワ / 38~17mm 8尾 / *Pseudorasbolla parva* モツゴ / 38~31mm 2尾 / *Gnathopogon gracilis* イトモロコ / 33~25 2尾 / 25mm ヒゲナシ 33アリ / *Mogurunda obscura* ドンコ / 35~23mm 4尾 / *Oryzias latipes* メダカ / 33~28mm 5尾 / *Cobitis biwae* シマドジョウ / 51mm 1尾 / *Misgurus anguillicaudatus* ドジョウ / 47~43mm / *Carassius auratus* フナ / 71~23mm 6尾

Mi-5

'57 VIII-16 / 御笠川 白木原 ビンドウ

Aphyocypris chinensis ヒナモロコ / 62~36mm 4尾 / *Hemigrammocypripis rasborella* カワバタモロコ / 30mm ♂ 1尾 / 黄金色の Nuptial color が出てる / *Zacco platypus* オイカワ / 31mm 1尾 / *Rhodeus ocellatus* バラタナゴ / 34~33mm 2尾 同一ビン表尸橋の下手 / *Acheilognathus limbata* アブラボテ / 35mm 1尾 / やゝ流れのある所 / (横線) / *Mogurunda obscura* ドンコ / 46~35mm 2尾 / 釣 / *Radix japonica* モノアラガイ 1 / タモ

備考：当時白木原に存在した橋梁は1か所のみであることから、「表尸橋」はこの橋梁のことを指すものと判断した。原則として目録は各ページの表面のみに記入され、裏面は白紙だが、Mi-5のみ裏面に「*R. ocellatus*」(原文ママ：ニッポンバラタナゴを示していたと考えられる)と「*P. rhombea*」(原文ママ：カネヒラ)の体側の縦線のスケッチが描かれている。

Mi-6

'57 VIII-14 / 御笠川 ホソ 釣

Parasilurus asotus ナマズ / 127mm 1 / *Paracheilognathus rhombea* カネヒラ / 95mm 1 / *Pseudorasbora parva* モツゴ / 79mm / *Mogurunda obscura* ドンコ / 88mm / ドジョウ *M. anguillicaudatus* を吐出ス / *Misgurus anguillicaudatus* シマドジョウ / 57mm 1 / *Oryzias latipes* メダカ / 32~23 6尾 / *Rhodeus ocellatus* バラタナゴ / 21~19mm 稚魚 / *Hemigrammocypripis rasborella* カワバタモロコ / 稚魚 / 25~22mm 3

備考：Mi-6とペン書きされた標本瓶にはカワバタモロコ3個体、バラタナゴ類3個体、ドジョウ2個体(うち1個体は吐出個体と考えられ、尾部が損傷している)、ミナミメダカ6個体、ナマズ1個体が含まれていた。目録中で「*Misgurus anguillicaudatus* シマドジョウ」と学名・和名が不一致で表記された個体はドジョウであると考えられる。

Mu-1

'57 VIII-7 / 室見川 河口 地曳 投網

1 *Carassius auratus* フナ タモ 地曳 / 53mm~36 12尾 / 88mm 投網 1 / 計 13尾 / 2 *Acheilognathus lanceolata* ヤリタナゴ 投 87mm 1尾 / 3 *Parasilurus asotus* ナマズ

投 120mm 1尾. /4 *Mugil cephalus* ボラ 投 123mm 1尾/5 *Lateolabrax japonicus* スズキ 投 101mm 1尾/6 *Paralichthys olivaceus* ヒラメ 投 110mm 1尾/'57 VIII-7 室見川河口/7 *Tridentiger obscurus* チチブ 地 75~37mm 2尾/8 *Acheilognathus flavimanus* マハゼ 地曳 79~ 1尾/9 *Aboma lacticeps* アシシロハゼ 地曳 74~54mm 6尾/10 *Cheanogobius castanea* ビリンゴ 地曳 35mm 前後 25尾/エビ 1尾
備考：当時の室見川は河口域の埋め立てや浚渫が進んでおらず、現在の愛宕大橋付近が河口であった。ただし、Mu-1 と Mu-2 で採集されている魚類の多くを純淡水魚が占めていたことから、木村の「室見川河口」は金屑川と合流する前の狭義の室見川河口を指すと推測される。チチブとして記録された種はチチブか、ヌマチチブ、もしくは両種が混在した可能性がある。土田ほか（2018）によれば少なくとも那珂川水系では両者が同地点内で混在する。なお室見川産の現存標本はヌマチチブであった。

Mu-2

'57 VIII-7/室見川河口 タモアミ

Carassius auratus フナ タモ/52~24mm 2尾/*Acheilognathus lanceolata* ヤリタナゴ タモ/40mm 1尾/11 *Oryzias latipes* メダカ/21~15mm 6尾/*Tridentiger obscurus* チチブ/66~18mm 7尾/*Cheanogobius castanea* ビリンゴ/52~33mm 7尾/*Aboma lacticeps* アシシロハゼ/44~32mm 4尾/12 *Rhinogobius similis* ヨシノボリ/平均 20mm 65尾/13 *Luciogobius guttatus* ミミズハゼ/30~24尾 6尾

Mu-3

'57 IX-8 夜 2000~2310

Acheilognathus lanceolata ヤリタナゴ タモ/61~32mm 11尾/14 *Cobitis biwae* シマドジョウ/71~38mm 2尾/*Oryzias latipes* メダカ タモ/30.5~28mm 6尾/15 *Cheanogobius urotaenia* ウキゴリ ヤス/72mm 1尾/*Rhinogobius similis* ヨシノボリ タモ/27~24mm 2尾/16 *R. guirinus* ゴクラクハゼ ヤス/65~62mm 3尾/モクズガニ、ザリガニが獲れた

備考：直前の Mu-2 と同一地点での採集記録と考えられるが、确实性に乏しい。通し番号から少なくとも室見川水系であると判断される。

Mu-4

室見川 '57 IX-8/椎原 上流 2ノ橋上 釣

17 *Moroco steindachner* アブラハヤ 釣/95mm 1尾/*Rhinogobius similis* ヨシノボリ 釣/80mm 1尾/釣餌 ミミズ/釣法 フカシ

備考：アブラハヤとされるものはその後分類学的再検討が行われ、現在ではタカハヤとされるものである。

Mu-5

'57 VII-30/室見川 小田部 橋下 及び 浄水池前/刺網 釣

Carassius auratus フナ 釣/122mm 1尾/*Acheilognathus lanceolata* ヤリタナゴ 釣/
77~43 6尾/18 *Zacco platypus* オイカワ ♂ 刺/113mm 1尾/19 *Z. temminckii* カ
ワムツ 釣/87mm 1尾/20 *Gnathopogon gracilis* イトモロコ 釣/57mm 1尾/21
Pseudogobio esocinus カマツカ 釣 刺×1/131~105mm 4尾/*Parasilurus asotus* ナ
マズ 釣/177~94mm 5尾/22 *Mogurunda obscura* ドシコ 釣/89~78mm/2尾/
Cheanogobius urotaenia ウキゴリ 釣/50mm 1尾/*Rhinogobius giurinus* ゴクラクハゼ
釣/93~52mm 4尾/*Tridentiger obscura* チチブ 釣/55mm 1尾

備考：小田部には浄水池と形容可能な構造物は存在しないが、第一井堰の上流側で、左岸側の福重（右岸側が小田部）には当時から福岡市の取水池（現福岡市水道局室見取水場）が設置されており、この場所を指していたものと判断される。

Mu-6

'57 VII-30/室見川第一井堰下手 及小田部橋下

Zacco platypus オイカワ 釣 サバムシ/86~86mm 2尾/（小田部橋の下手の瀬）/
Tridentiger obscura チチブ タモ/51mm 1尾/23 *Glossogobius giuris* ウロハゼ タモ
/64mm 1/24 *Cottus pollux* カジカ タモ/25~17mm 11尾

Mu-7

'57 VIII-1/室見川 小田部の田の溝

Carassius auratus フナ タモ/68mm~35mm — 4尾/*Oryzias latipes* メダカ/28~
17mm 3尾/ザリガニ/シジミ

備考：当時の小田部は田園地帯が広がっており、無数の「田の溝」（水路）があったと推測される。具体的な位置の特定は困難であった。

Mu-8

'57 VII-31 釣/室見川 汽水域（室見橋工事端の100m上の右岸）

Acheilognathus lanceolata ヤリタナゴ 釣/77mm 1尾/*Tridentiger obscurus* チチブ
釣/115mm 1尾

Mu-9

'57 VII-3/室見川 汽水域（鉄橋～第一井堰間）/投網, 釣

Acheilognathus lanceolata ヤリタナゴ 釣/81~68mm 8尾/*Carassius auratus* フナ
釣/59~52mm 2尾/*Zacco platypus* オイカワ 釣/95~77mm 2尾/*Mugil cephalus*
ボラ 投網/120~119mm 2尾/*Acanthogobius flavimanus* マハゼ 釣/93~76mm 2
尾

Mu-10

'57 VIII-2/室見川 小田部 橋の下手の瀬/投網, 釣

Zacco platypus オイカワ 投網/114~85 2尾/*Parasilurus asotus* ナマヅ 手ツカミ
108mm 1尾/25 *Plecoglossus altivelis* アユ グイトウ 144~118 3尾/*Lateolabrax
japonicus* スズキ 投 137mm 1尾

備考: グイトウとはコロガシのようにイカリ鉤を用いて大きく竿を煽り, アユを引っ掛けて釣る方法を指す (佐藤・鈴木, 1942).

Mu-11

'57 VIII-1/室見川 松風橋下手 (セキワキ)

Zacco platypus オイカワ 刺網 (4分) /128~103mm 8尾/*Pseudogobio esocinus* カマ
ツカ/152~122 4尾

Mu-12

'57 VIII-1/室見川 松風橋下手 Mu-11 参照

Zacco temminckii カワムツ/122~52 7尾/小さい2個体はタモアミで採集/26

Pungtuugia herzi ムギツク/ {121 (突) ~110 (刺) ~33 (タモ)} 3尾/

Gnathopogon gracilis イトモロコ タモ/60mm 1尾/*Cobitis biwae* シマドジョウ/他
にナマズ 290mm あり。

Mu-3

'57 IV 26/室見川 椎原, 谷口, 地先

Zacco temminckii カワムツ 釣 谷口/149mm 1尾/27 *Moroko steindachneri* アブラハ
ヤ 釣 椎原/111~73mm 3尾/28 *Onchorynchus masou* ヤマメ 釣 椎原/188mm
1尾/ (横線) /29 *Misgurnus anguillicaudatus* ドジョウ/30 *Cyprinus carpio* コイ/31
Coreoperca kawamebari オヤニラミ/32 *Lampetra reissneri* スナヤツメ/32 *Anguilla
japonica* マウナギ/33 *Pseudobagrus aurantiacus* ギバチ

備考: Mu-3 とは日付, 場所共に異なるため, Mu-13 の誤記と思われる. 椎原, 谷口はそれぞれ西鉄バス停車場付近であると推測される. 横線の下部に列記された種は種名のみの表記になっており, 他の採集記録とは表記方法が明らかに異なることから, Mu-3 (Mu-13) での調査時の確認種ではなく, 木村による室見川での確認種で, かつ Mu-1 から Mu-13 に含まれなかった種であると考えられる. なおスナヤツメとマウナギ (ニホンウナギ) に対して付加された番号にみられる重複は誤記によるものであると推測される.

A Field Note Written by Dr. Seiro Kimura Titled “Muromi-gawa-gyorui-mokuroku” and Freshwater Fish Specimens from Rivers into Hakata Bay

Yusuke HIBINO

Kitakyushu Museum of Natural History and Human History,
Higashida 2-4-1, Yahatahigashi-ku, Kitakyushu, Fukuoka, 805-0071 Japan

A field note written by Dr. Seiro Kimura titled “Muromi-gawa-gyorui-mokuroku (Catalog of Fishes in Muromi River)” and freshwater fish specimens collected in Fukuoka City and its surroundings (rivers flowing into Hakata Bay) during the same period were found in the specimen building on the Hakozaiki Campus of Kyushu University, Fukuoka, Japan. The Catalog consists of collection records in Naka River, Mikasa River, Muromi River, and rivers and channels flowing into them in 1957; it includes important species such as *Pseudobagrus aurantiacus* in Muromi River, *Aphyocypris chinensis* and *Hemigrammocyparis rasborella* in Mikasa River. Fish specimens collected in 1957 to 1961 (34 species of 11 families) includes *Cottus* sp. (middle-egg type) and *Pseudaspius hakonensis*, which are already in a state of extinction in the rivers flowing into Hakata Bay.

Key words: museum specimens, urbanization, extinct species, Fukuoka Prefecture